

大阪 引き合い継続を背景に市況膠着状態

(大阪) 大阪地区の鉄スクラップ市況はなおも様子見状態。日本玉の割高感が強まつたままであり、輸出環境は振るわないものの、電炉筋によっては入荷伸び悩みを受け、引き合い継続を余儀なくされているため、足元に関して見れば、海外より地区需給を反映した展開となっている。同地区電炉のH2実勢値は1万9,000円~2万円、新断バラ同2万1,000~2万2,000円、鋼ダイ粉バラ同1万5,500~1万6,500円(一部上値1万7,000円)見当で推移。

13日実施の関東テンダーが市場予想より高く、先行き不安を後退させる材料となりつつも、「テンダーは大型船を用いるなどのプレミア的な要素が強く、輸出価格の実態を即したものではない」(商社)との声が聞かれる。また、韓国側は国際対比で日本玉の割高感

東京製鉄、米国産ディープシーを調達、岡山工場に12月入着か

東京製鉄が米国産ディープシーを調達したもようだ。複数の貿易筋によると、HMS.N01(80:20)、シュレッダー、他との合意積みで数量は3万8,000トン、契約価格はトン当たりCFR225ドルとされている。入着は12

月を指摘しているほか、韓国ミルの在庫レベルも総じて高く、購入意欲は低迷したままだ。韓国・現代製鉄は日本玉商談を行っているようだが、積極的に購入する意図はないとのことで、「ベトナムの一部以外は買いを強めておらず、韓国との商談は停滞ムードを払拭できない」(同)という。

だが、地区内では高炉や姫路向けの流出によって、電炉間の入荷にバラ付きが生じたままであり、使用量にやや届かないところも見られる。中山鋼業の設備トラブルが全体生産を下押しつつも、個別では複数で先月比増に転じることで、入荷促進の手を緩め難い展開となっており、「裏値が継続されるかは別として、実勢レベルは現行を維持していくのでは」(ヤード業者筋)との見方を強めている。

東京製鉄、米国産ディープシーを調達、岡山工場に12月入着か

月を予定。到着地は近隣高炉や姫路向けへの流出によって、入荷難が続く東京製鉄岡山工場が有力視されている。納期までには日が残るもの、到着が近付くにつれ、需給、価格ともに影響を及ぼしそうだ。

近畿工業、金属リサイクル企業向けに「省エネ型振動ふるい機」を販売

(兵庫) 破碎機・選別機メーカーの近畿工業(本社=兵庫県三木市別所町巴20番地、和田直哉社長)は「省エネ型振動ふるい機(FLH型)」(写真)を金属リサイクル企業向けに販売を強化している。

同機は発売から5年以上も経過する1万台の販売実績を持つロングセラー商品に新たに制御技術に改良を加え、従来機に比べて約20%の省エネを図ったものだ。これまで主に碎石場や石炭火力発電所などで用いられてきたが、同社独自の技術に応用を効かせ、金属リサイクルの加工時に発生するギロチンやシュレッダーダストまでの処理が可能となった。

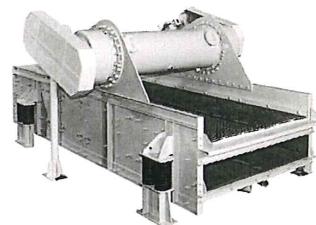
地域や処理委託先によって異なるものの、同機でのふるい処理を行うことで、管理型最終処分場向けのダストを減容させ処分費用の安い安定型最終処分場向けを増やせたケースや安定型へは無理でも異物除去によって、結果的に処分費用を抑えられるといった実績

もあり、コストダウンにも寄与している。また、同機は「スーパー・シュレッダー」同様に、生産性向上設備投資促進税制の対象となっているため、平成27年3月末までに固定資産登録完了などの条件を満たせば、補助金制度を活用しての導入が可能だ。

業界の関心が高く、見積もりなどの各種問い合わせも多いなかで、同社は今年のNEW環境展に出展した実機も1台販売しており、即時納入が可能なだけでなく、新機よりも安い価格帯で導入できる。

【省エネ型振動ふるい機(FLH型)】の問い合わせ先
近畿工業(株)

兵庫県神戸市中央区栄町通4-2-18
電話078-351-0770



メール速報サービス

■ 東京製鉄、非鉄建値・ニュース速報

■ 主要国スクラップ輸出入・粗鋼生産など

会員登録無料

登録無料

日刊 METAL RECYCLING JAPAN

株式会社 日刊市況通信社

お問い合わせは
mb@mrj.jpまで

製鋼原料
ギロチンシャー
プレス加工

①ギロチン材、鋼ダイ粉
②新断くず
③ステンレス、その他非鉄全般

高価大量買付け

三浦金属株式会社
本社 大阪市西淀川区佃4-3-12
TEL 06(6471)1038(代)
FAX 06(6471)2559

JAB
ISO 14001認証

MUURA METAL CO.